紙相撲新聞
第156回本場所
初日～三日目号
編集・発行
日本紙相撲協会

鹿富士 横綱3タテ

昭和29年（25回本場所）照の花以来
紙相撲史上2人目の3横綱から金星

【第百五十六回本場所初日～三日目】

令和4年夏場所となる第156回本場所初日が5月14日に幕を開け、三日目までの熱戦が繰り広げられた。

今場所は、先場所優勝した大神楽が9場所振りに大関に復帰、2場所連続負け越した佐賀ノ海が関脇に陥落して、上位陣は春ノ翔、美空富士、若ノ嶋の3横綱と千代鈴、大神楽の2大関という布陣となり、関脇に出羽翼、烏帽子岳、佐賀ノ海、小結に鹿富士、魁電が番付に名を連ねた。

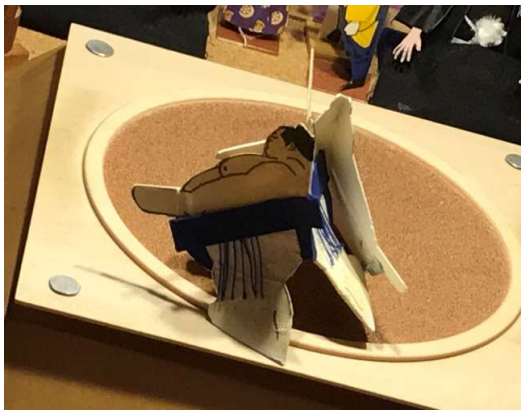
優勝争いは横綱・大関陣を中心に展開されると思われるが、特に大関に再昇進した大神楽は「連続優勝して横綱への足固めを！」と意気込んでいる。

三日目　鹿富士○（寄り切り）●春ノ翔

先場所、優勝争いに加わったものの終盤に失速して7勝に終わった出羽翼は関脇に返り咲き、幕内力士9人を要する勝間田部屋の部屋頭として、大関昇進への足がかりの星を残すことができるか、勝間田親方が大いに期待を寄せる。

また、横綱昇進まであと一歩というところまで行きながら膝の不調で関脇に陥落した佐賀ノ海は大関復帰の条件となる8勝をあげることができるかに注目が集まる。

フレッシュなところでは、暫改め綱乃花、西神門、勝ノ川の3力士が新入幕を果たしたが、中でも綱乃花は友砂親方が「末は大関、横綱！」と期待を寄せるホープ。2場所連続十両優勝を引っさげての新入幕で、早くも朝日松理事長の現役時代の四股名の第37代大関綱乃花の二代目として改名させるほどで、将来を嘱望する期待の高さのほど窺える。


二日目　鹿富士○（寄り切り）●若ノ嶋

朝日松理事長も場所前の記者懇談会の場で「今場所はやはり横綱大関による優勝争いを期待するが、上位陣が星のつぶし合いをするようだと綱乃花が優勝争いに割って入るかもしれい。」と語った。

見どころ満載の第156回本場所だが、三日目を終えて波乱の幕開けとなり、早くも横綱大関陣での勝ちっ放しがなくなり、連続優勝を狙う新大関大神楽も1勝2敗と苦しいスタートとなった。

三日目を終えて3連勝としたのは、三役以上では小結鹿富士ただ一人。鹿富士は3横綱を三日連続で撃破する大殊勲の相撲をみせた。

3横綱が番付に名を連ねたのは156回本場所中34場所、その中で不勝を除き3横綱全てに勝ったのは過去には第24回場所、当時大関の照の花が富士昇、荒登、田子浦を倒して以来の快挙。

初日　鹿富士○（寄り切り）●美空富士

今場所久しぶりに三役に返り咲いた小結鹿富士は初日からいきなり横綱3連発の割りを組まれた。「小結になんてなるもんじゃないね。初日から横綱3連戦だよ。」と嘆き節の鹿賀乃戸親方。

しかし、初日に美空富士、二日目に若ノ嶋、三日目に春ノ翔と、なんとまさかの3横綱を撃破しての3連勝。しかも3番とも左差しから寄り切るという完勝という相撲内容。

これには「これであと3番勝てば、殊勲賞確実だな！」と鹿賀乃戸親方はご満悦の表情。「鹿さん！3横綱に勝ったんだから、全勝優勝だって夢じゃないかもよ！」と錦風親方。すると横から朝日松理事長が「鹿賀乃戸さん！まさかこれで負け越しは勘弁してよ！」と釘を刺される場面もあった。いずれにしても、今場所の鹿富士の相撲から目が離せない。

先場所、大神楽との優勝争いで優勝を逸した横綱春ノ翔は、場所前に優勝候補筆頭にあげられていたが、1勝2敗とまさかの黒星先行のスタートとなった。

初日は同門の小結魁電と対戦。魁電はトレードマークの濃赤色の廻しを黄金の廻しに変えての登場。過去の対戦成績は5勝5敗の五分。初日ということもあり緊張もあったか、立合いに魁電にいきなり左を差され、そのまま一方的に寄り切られた。

二日目は春ノ翔らしい鋭い出足の相撲で、月山をのど輪から押し出しに下して初白星を上げて桐壺親方を安心させたが、三日目

春ノ翔○（押し出し）●月　山

春ノ翔●（寄り切り）○魁　電